

Injury Alert (傷害速報)類似事例

鼻咽頭検査キットによる消化管異物(No.133 新型コロナウイルス抗原検査キットによる鼻腔異物の類似事例 1)

事例	基本情報	年齢：1歳 6か月 性別：男児 体重：11kg 身長：82cm
	家族構成	父、母、姉、本児
	発達・既往歴	食物アレルギー（小麦、卵、乳）
臨床診断名		異物誤飲
医療費		入院 926,750円 外来 121,350円
原因対象	対象名称	鼻咽頭ぬぐい検体採取用綿棒
	入手経路 使用状況	鼻咽頭検査キットとして広く医療機関で使用されているもの。綿棒を鼻腔に挿入して検体を採取する。1回ごとに使い捨てのものである。
発生状況	発生場所	医療機関（外来）
	周囲の人 周囲の環境	検体採取を行う診察室で、医師、看護助手、母、本児が同室内にいた。
	発生年月日	2023年6月X日（金）午前10時55分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	X日午前中、鼻汁・咳嗽を主訴に医療機関Aを受診した。RSV/hMPV抗原検査用の検体採取を試み、一度目は母が膝上に児を前向きに抱っこし、固定した状態で検体採取を試みたが、児の体動が激しく、綿棒先端が児の鼻孔から1-2cm程度までしか挿入できなかった。同じ綿棒を再使用し、児と母の体勢は一度目と同様で、固定介助者を1名加え検体採取を試みた。鼻咽頭まで挿入した時点で、ハンドルの切れ込み部で綿棒が折れてしまい、綿棒の折れた先端部分が児の体内に残った。事故発生直後に児は大量に嘔吐したが吐物の中に綿棒の排出がなく、鼻腔・口腔内を観察したが綿棒が発見できなかった。医療機関Aの耳鼻咽喉科に異物除去を依頼し、午前11時15分頃に鼻腔咽頭ファイバースコープで観察するも異物を確認できなかった。頭部～胸部CT検査を実施し、食道内に綿棒の可能性を疑う異物陰影を認めたため、異物摘出のため医療機関B（高次医療機関）の小児外科に紹介した。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>搬送先では全身状態良好であり、消化管造影を実施するが異常所見を認めなかった。症状が乏しく異物が確認できないこと、鋭利でないことや全身麻酔や内視鏡処置リスクを総合的に判断し内視鏡検査は不要と判断され、経過観察となった。X+3日、異物の便への摘出が確認できていないため、腹部CT検査を実施し、上行結腸内に線状の高吸収域を認めた(図1)。下部消化管内視鏡検査を検討したが、自然排泄を待つ方針とした。結腸内に大量の便貯留があり、便秘により排泄の遅れを疑い定期的に浣腸をして入院観察を継続した。X+5日に再度腹部CT検査を実施したが異物は確認できず、膿瘍形成や穿通などの異常所見もなかった。自宅での経過観察の方針とし、退院した。その後も綿棒の排出が確認できず、X+27日に頸胸腹部MRI検査を実施したが、異物は確認できなかった。X+188日に全身麻酔下で上部消化管内視鏡検査を実施したところ、粘膜病変はなかったが、幽門から十二指腸球部にかけて綿棒が確認されたため摘出し(図2)、X+189日に退院した。</p>
<p>キーワード</p>	<p>綿棒、鼻腔異物、消化管異物、消化管内視鏡</p>

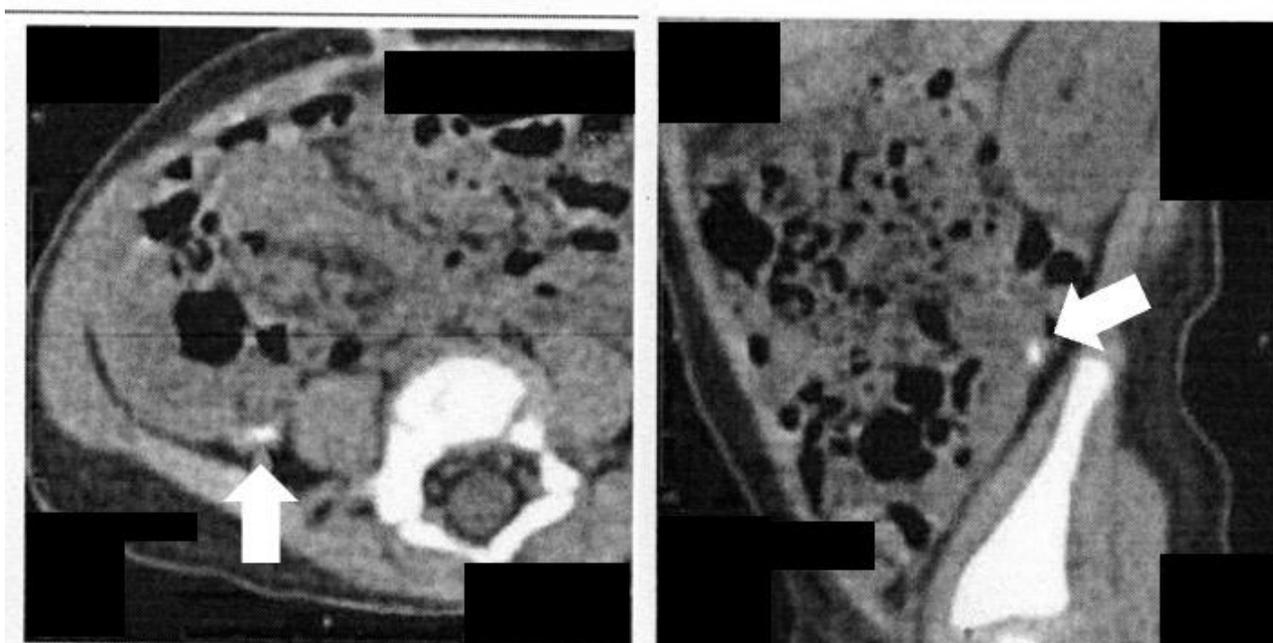


図1. X+3日に撮像した腹部CT写真
線状の高吸収域(矢印)を認めたが、最終的な経過からは異物ではなかったものと考えられる。

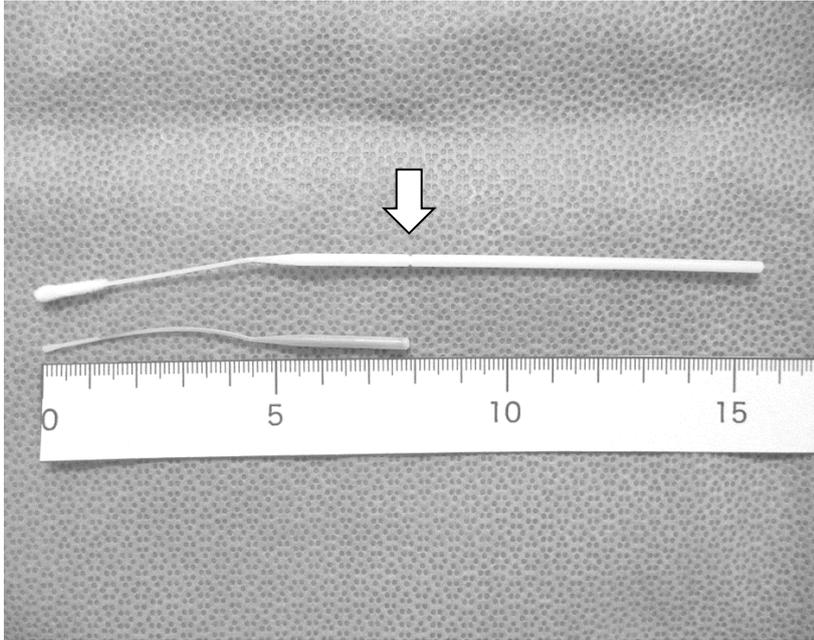


図 2. 取り出した異物(下)と未使用の同製品(上)
ハンドル部に切り込みがあり、矢印部分で用手的に簡単に折る事が可能。